

NEWS LETTER VOL.179



STAY
HOME, STAY
Safe



目次

“I See Your Engagement” 特集	・・・ 2-19
(1)各日の様子	・・・ 2-8
(2)参加者の声	・・・ 9-12
(3)スタッフコメント	・・・ 13-19
事務局だより	・・・ 20-22
帰国生の声	・・・ 23
お知らせ	・・・ 24
インターン’ s Voice	・・・ 25, 26
編集後記	・・・ 26

2020年も残すところ4ヶ月。まだまだコロナウイルスの影響により、海外への派遣が厳しい状況が続いています。今回のニュースレターでは、そのような状況下でも ICYE ジャパンが活発に活動していることを皆さんにお伝えできればと思っています！ ICYE ジャパンと ICYE ベトナムが協力して作り上げた”I See Your Engagement” は大成功を治め、このような状況下でも国際交流ができることを、ICYE のパートナーが身をもって証明しました。ぜひ、このニュースレターを通して「新しい国際交流の形」を感じ取ってください！



I See Your Engagement 特集



5日間にわたって行われた日本とベトナムの交流イベント！近年、環境問題や人種問題などに関する社会運動に、積極的に参加する若者・ユースの姿多く見ることが出来ます。SNSなどで世界中の情報を得ることが容易になり、世界規模、地球規模で起こっている問題が「じぶんごと」である。という理解が深まり、それが行動に繋がっているように感じます。

「若者が行動し、世界を動かす」「自分達の未来づくりに責任を持って参加する」この流れをアジアでも更に広げていきたいという考えの下、ICYE(International Cultural Youth Exchange) ベトナム委員会とジャパン委員会でオンライン共同開催プログラム「I see your Engagement」開催致しました。

各日の様子

— 1日目 —

日本とベトナムの交流会イベント

“I see your engagement”、1日目はイントロダクションとして参加者同士の交流がメインとなりました！

コロナウイルスの影響によって、従来行われていたような国際交流イベントの開催は難しいのではないかと日々感じていました。しかし、

ICYE ジャパンと ICYE ベトナムの協力によりオンライン上での国際交流が実現し、多くの方が求めているイベントであったとすることができます！

イントロダクションとして、ベトナムの参加者と日本の参加者がペアになって、お互いのいい所を全体に紹介しました。ペアになった Haさんは、私と同年でイベントのプロジェクトアシスタントを務めている方でした。彼女が参加者全員の前でも積極的に発言する姿勢からは、多くの刺激をもらうことができました。

1日目全体の感想としては、「悔しい！」というのが本音。私を含め、日本人参加者の皆さんが、何かを話したいけどなかなか積極的になれない場面が多くありました。国際交流の機会が減っている中では、初日からアクセルをかけることの重要さを感じました。ベトナム人参加者の皆さんのように、初日からもっと主体的に参加することができれば良かった、言いたいことをすぐに言えば良かった、そんな悔いが残ってしまいました。

インターン Mami



—2日目(1)—

イベント2日目。今日はそれぞれグループでの活動日です。

全体でのセッションはお休みですが、どんな経緯で、どんな想いをもって参加しているのかを聞きたくて、参加者へのインタビューを実施しました！

ベトナムから 大学生2年生 Giang さん

—今回のイベントに参加した理由を教えてください。

1つ目の理由は、自分の英語のスキルを向上させるためです。2つ目の理由は、日本とベトナムの伝統や文化に関する知識を広げるためです。(2か国からの参加者が一緒に行うグループで) どうやってチームワークをしていくのかと学び、そして新しい友達を作りたいです。

—1日目、実際に参加してみてどうですか？

わたしにとって、新しいことだと思いました。

3年前から、無償で学習を提供する団体

(*ADORABLE HOUSE) でボランティアとして子ども達に数学や物理を教えてきました。

でも今回のイベントは、知識をお互いに交換し、環境問題などの世界中にある問題をどうやって解決できるのかという新しいアイデアを見つけることもできます。だから新しいと思いました。



大学で電機システムを専攻しているGiangさん。専攻について詳しくお聞きしたところ、こういうのも設計しているよ～見せてくれました。生活が根差している学びだと、とても誇らしげに話してくれました。

—「日本文化に興味がある」とお話しされていましたが、具体的にどんなことに興味がありますか？

言い表すのが難しいですが…環境をどう守るかとか、ベトナムは多くの問題を抱えています。自分が参加しているボランティアにも生かせるよう、向上させ発展させるために、日本や世界中のことを知り、経験したいと思っています。また、教育に関して、(私が経験したことを伝えて)生徒達の将来やキャリアに活かすことができるよう知りたいです。

—イベントのテーマ「Youth Engagement」ってどんなことだと思いますか？

例えば、教育に関して。コロナウイルスの感染拡大は、(学習の継続という面で)都市部の学生たちにとっては対処できることでしたが、(ベトナムでもオンライン授業が行われました。)、田舎の学生にとっては(ネット環境の問題などから)学習をすることが難しかったです。そこには教育・ソーシャルメディアの問題があります。ソーシャルメディアや教育において、環境問題に対し何ができるのかを示したり、学校現場や私のようなチューターがどうやって環境を守るのかを子ども達に教えたりすることができます。そんなことが、できると思います。

* ADORABLE HOUSE : <https://adorablehousebc.wixsite.com/tutoring>

日本語チューターも募集しているとのこと。興味のある人はぜひサイトチェックを！

—2日目(2)—

大学生1年生 村瀬悠さん

—今回のイベントに参加した理由を教えてください。

どうしたら「若者の社会参加」が積極的になるのかを考えて、友人とプロジェクト（*Design,more.）を立ち上げました。そんな時にFacebookで今回のイベントを知り、自分が考えていることと近いと感じて参加しました。

—もともと若者の社会活動に対する想いがあったということですね。きっかけはなにかありますか。

僕自身、ボーイスカウトを通して、募金活動や国際交流活動を経験していて、スポーツボランティアや災害ボランティアにも参加したこともあります。でも、そういった話を友達にしたときに「へ～すごいね～」と反応されることがありました。自分としては、それが『すごいことをしている』というものでもないし、絶対に「何かをしたい」という想いがある人はいるはずだから、みんながもっとオープンに社会活動に参加できたらいいのにと思っています。



入学前の懇親会で出会ったご友人とオンラインのみのやり取りでプロジェクトを立ち上げた村瀬さん。社会参加へのアクションを「カッコいいからやってみよう!」と思ってもらえるような活動をしていきたいと笑顔で話してくれました。

—実際に参加してみてどうですか。「こういう活動をやりたい!」という想いがある人たちが集まっていて、活発でいいなと思いました。グループのテーマは「教育」です。メンバーは、ベトナムの高校生と大学院生と僕（大学生）で、今いる教育の場がそれぞれ違うメンバーなので、それぞれの目線で話ができいいです。話がとても盛り上がり、だいたい発表の流れも決まり（2日目18時時点）、今は担当を分けて調べています。明日、それぞれ調べたことを持ち寄ってディスカッションをするので、すごく楽しみです。僕自身プレゼンテーションを作るのが大好きなので、どんなプレゼンテーションにしていこうか考えるのも楽しみです。

ーイベントのテーマ「Youth Engagement」ってどんなことだと思いますか。

「社会参加」はすごく意味の広い言葉だし、ありとあらゆる活動がそこには含まれている、このイベントもある意味社会参加のための一歩だと思います。まず、そこに自分からでも他人に背中を押されてでもいいので、この一歩を踏み出せることが大事だと思います。もう一つは、自分が学んだことを自分の中に留めるのではなく、周りの人に発信していくことが大切だと思います。自分が経験したことを自分の中だけに留めちゃうのがもったいないし、僕自身すごい先輩たちに触発されて何か行動を起こした経験もあります。自分が行動者としてだけでなく、発信者としても行動していくことが、僕たちが社会参加をする上で大切なことだと思います。

*Design,more. : 持続可能な社会を実現するための行動の創発を目指し、「デザイン」の視点を取り入れたコンテンツを用いて多分野横断的な活動を展開するプロジェクト。ぜひサイトもチェックを！

<https://www.facebook.com/designmore2020>

(9/7～新サイトはこちら <https://www.designmore.org>)

Giang さん、村瀬さん、ありがとうございました。

参加者の方の想いを聞いて、明日以降の全体セッションがますます楽しみです！

インターン Ayaka



— 3 日目 —

I see your engagement の3日目が終わりました。私のグループはイベントがない日も時間を合わせてミーティングを行っていたため、初日に比べて仲も良くなりプレゼンの準備も順調に進んでいた中で迎えた3日目でした。参加者全員が集まっても、グループ内での関係もあったので比較的リラックスして参加することができました。

イベントでは最終日に行われるプレゼンの見本として今回のイベントのPAでもあり同じICYE ジャパンのスタッフであるトミーと、同じくPAのハーさんによるプレゼンをみました。「Virtual World & Youth」というテーマで素晴らしいプレゼンを披露してくれて、自分のグループにとって参考になりました。その後のディスカッションパートでも2人が進行してくれて3日目が終わりました。この3日目を通して思ったことは、「仲間から学ぶことはたくさんある」ということです。同じICYE ジャパンのスタッフが頑張っている姿を見て「自分も更に頑張ろう」と感じ、良いところを吸収して自分も成長したいと思いました。

インターン うめけん

—4日目(1)—

イベント4日目。昨日のあつ〜いディスカッションから一夜明け、今日はグループ活動の日です。最終プレゼンテーションの日を明日に控え、参加者の今の想いをインタビューしました。



ベトナムから 大学2年生 Hoaさん

—今回のイベントに参加した理由を教えてください。

1年以上、日本語の勉強をしています。日本が好きで、先進国である日本のことをもっと勉強したいです。日本人は真面目で、よく働いて、成果を出します。

私の専攻は観光マネジメントなので、ホスピタリティーについても知りたいと思っています。このイベントでは、友達をたくさんつくって、楽しんで、英語力を向上させて、さらにチーム活動での問題解決能力も高めたいです。

—ここまで実際に参加してみてグループはどうですか。

初めはちょっと上手くいかないこともあって…同じグループの日本人メンバーが、連絡しても反応してくれなかったことが悲しかったです。

友達になろうと、私自身のことをオープンにたくさん話したけど、日本人はとてもシャイで、そこはちょっと難しかったです。でも、グループ間で連絡を取るようになって仲が深まると、意見交換をするようになって、今は上手くやっています。



日本のドラマや映画が大好きだという Hoa さん。インタビューから脱線して、ある日本人俳優さんの話でとても盛り上がりました！とてもお金がかかるけど、いつか日本に行きたいと話してくれました。

—日本人はどう言っているか考え込んでシャイになりがちなところがありますよね…今は上手くいっているならよかった！全体としてはどうですか。

イベント全体としては、難しいと思うこともやりやすいとおもうこともあります、初めのうちは多くの参加者が静かで、関わっていくことも緊張したけど、だんだん相手を知っていくと、(本当は)みんな社交的で、連絡を取り合うこともディスカッションをすることも、難しいことではなくなりました。

私がこのイベントに参加すると決めたことは、全く正しかったと思っています。

—ちなみに友達と社会問題について話すとか、何かそういうことって普段ありますか。
 日常的な会話で、普段は特にはないですね。「何を食べたー」とか「あのイケメンー」とか笑
 コロナウイルスについてはもちろん話すことはありましたが、今はもう珍しいものではなく私たち
 の身近にあるものだし、間違っただけの情報が出たこともあったので、今は特に話すということもありません。

—友達との会話は万国共通ですね！イベントのテーマ「Youth Engagement」ってどんなことだと思いますか？何ができると思いますか？

若い世代が私たちのコミュニティに対して、前向きな姿勢を示すことだと思います。例えば、この
 コロナウイルス感染拡大の状況の中で、ソーシャルメディアでは、正しい情報を示したり、病院
 のお医者さんや患者さんの助けとなるような、他者を助ける美しい行動について話したりしまし
 ました。

こういったことは、私たちのコミュニティのみんなに、前向きな姿勢をもたらしてくれると思っ
 ます。



—4日目(2)—

日本から 高校3年生 村木由香乃さん

—今回のイベントに参加した理由を教えてください。

昨年アメリカに留学をして、人種問題に興味を持つようになりました。

BLM問題があり、人種問題が大きなトピックになってきている最近、社会問題を他の国の人たちは
 どうとらえているのか、他の国の人からの視点で物事をとらえたいと思って参加しました。

—人種問題に興味を持つようになったきっかけはありますか。

小さい頃、アメリカの都市部に住んでいたこともあり、英語力を上げたくて留学をしました。アメリカのイメージは
 「ダイバーシティ」「教育レベルが高い」といったことでは
 したが、留学先は田舎の方で、暴力やドラックがある地域
 でした。でもそれは彼らにとって当たり前で、彼ら自身が悪
 い人達なのではなく、環境がそうさせているということに
 気付くことができました。貧富の差を解決するには環境を
 正すことが大事だと学びました。黒人の人の方がもらっ
 ているお金が少ないとか不平等な環境が人種問題に関係して



昨日のディベートでのベトナムの方の発言が時事
 問題も取り入れて意見しているところがすごい！と
 刺激を受けた由香乃さん。せっかく知れたのだからとベトナムのコロナ状況も気になり、何かできるこ
 とはないかと思っているとのことでした。

いることを感じました。

日本にいるときはあまり人種問題に対して直接触れることはなかったけど、留学で実際に起きている問題に触れて、考えることが大切だなと思いました。

—ここまで実際に参加してみてどうですか？

初日はすごく緊張していて、直接会うこともなく PC だけを使ってやるということが不安だったんですけど、進行の方がベトナムの方にも日本の方にも同じように気にかけて話を振ってくださって、最後はリラックスして臨むことができました。

グループ活動は、時差の難しさを感じています。日本だとすぐに返事が来るけど、時差があると忙しい時間だったとか…今日ディスカッションをするので頑張ります！あとは、同年代の参加者の人達、私よりも年下の人もいますが、みんな社会問題に対する意識がすごく高いなと思いました。

私が知らないようなことを知っていることもあり、自分ももっと社会問題に対して積極的に取り組まないと！と思いました。

—イベントのテーマ「Youth Engagement」ってどんなことだと思いますか？何ができると思えますか？

未成年でも、自分の意見を発信できる環境があるべきだと思います。そして、SNS を活用することが大事だと思います。今回、英語を話す機会にもなるから参加したんですが、海外の人を理解しつつ、自分の言葉で意見を発信すること、一つの問題に対してお互いを理解し合っって色々な国の人たちと解決に向かうことが大切だと思います。



Hoa さん、由香乃さん、ありがとうございました。

インタビューを通して、若者世代が前向きな発信をしていくことの大切さを改めて感じました。いよいよ明日は最終プレゼンテーション日！どんな発表が見られるか、楽しみです。

インターン Ayaka

—5日目—

5日間に及んだ「See Your Engagement」が終わりました！参加者の皆様、ICYE ベトナム、ICYE ジャパンのスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした！本当に初めての試みだらけで色々大変なことはありましたが、無事に終わることができて何よりです。プレゼンテーションの方もみんな高校生とは思えないクオリティーの高いものをしてきて自分も参考にしたい部分が多くありました。個人的にはベトナムの学生がベトナムのゴミ問題について考えていることを知れたのが一番よかったです。後は今回折角ベトナムと日本の学生を繋げることができたので他の国ともイベントをやってみたいなあとと思います。

インターン トミー

参加者の声

1、村瀬悠さん

まず、国際交流のイベントに関わるのが久しぶりでとても楽しかったのと、チームでの満足感がすごくあります。チームで自信を持って「よくやった！」と言える成果を出すことができたことが1番嬉しいです。毎朝 Zoom でチームミーティングをしていましたが、ベトナムのメンバーが停電でできないというアクシデントもありました。コロナで「外に出られない」「学校に行けない」という事情はどの国でも大方変わらなくても、その国がもともと持っていた社会事情・背景によって問題化してくることが違ってくるということを学びました。日本でもベトナムでのコロナ禍でのオンライン授業がありました。が、「停電したから困るよね。」ということは日本では起こらないですよ。

大体の人が通信環境やデバイスを確保できる日本と、デバイスが買えない人たちはみんなで共有するベトナム。同じ状況に直面していても、もともとの事情が国によって違い、問題意識の向きと中身が変わってくるということに、気づかされました。コロナウイルスによって、今まで見過ごされ無視されていたような問題も顕在化し見えるようになりました。今までやってきたことができなくなった分、今までの行動を振り返る時間やきっかけになればいいと思います。

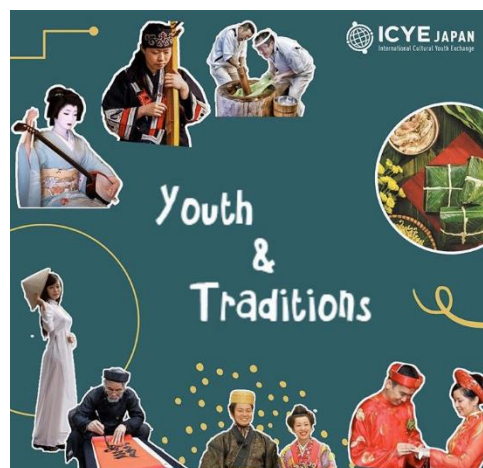


イベントのテーマである、「若者の社会参加・社会責任」を『これです。』と一つにまとめて言うのは難しいです。でも、若者だからこそまだ社会のしがらみにとらわれずにどんな状況でも明るく進んでいけることが特徴として言えます。例えば、グレタさん（スウェーデンの環境活動家）の行動は大人の視点からすると突っ込みどころ満載なところもあるのかもしれませんが、でも自分にとっては、日本で環境マーチに取り組む同年代の人たちを含め、新鮮な動きです。パワーを感じるし、中身の細かいところがどうこうということよりも、パワーに頼って進んでいけるものが若者のうちはあると思います。そういうものを押し出して、社会をいい方向に変えていくことに繋がればいいのではないかと、というのが僕の考えの一つです。

2、村木由香乃さん

このイベントを通して、社会問題に対する意識がより深まったと思います。（ディベートの時の活発に意見を発表していた）ベトナムの人達が、私と同じ世代、若い人たちなのに社会問題に対する意識がすごいなと思い、印象的でした。グループワークでは、国によって連絡手段として使われている主流のアプリが違っていたのでZoom使うことになり、でもコネクションが悪かったり、インターネット環境がそれぞれ違ったりするのは大変でした。時差や予定を合わせることの難しさもありましたが、Zoomで話をしているときは、反応がその場であるからやりとりがスムーズでした。

課題の話題以外にも、ベトナムがどんな様子か、ベトナムの高校生がどんな人達なのか、国同士のコロナでの近況を知ることができて、楽しかったです。プレゼンテーションは、同じことを日本とベトナムで対比しながら、分かりやすく伝えるようにしました。（グループテーマは「伝統」）テーマに沿って調べて、日本の知らなかったことを改めて発見することもできました。例えば、日本の礼儀文化は独特で、ベトナムの人にとってびっくりするようなことだそうです。トイレのウォシュレットも、ベトナムの人にとってびっくりするもの！私にとっては、日常的にあるものだから、日本ってすごいんだなと改めて感じることができました。食文化でも、ベトナムも日本もお米を食べるけど、ベトナムでは麺にして食べます。そのほうがヘルシーでよさそうだな～なんて思いました。



全体のセッションはどれも印象的なことばかりでしたが、最後にみんなで和気あいあいとしながらも寂しいような気持ちになったことが1番印象的でした。オンラインイベントだから、実際には1度も誰にも会っていないのに、5日間一緒に過ごして、最後の時には名残惜しいし寂しい気持ちになりながら一緒に過ごすということが不思議な感じでした。イベント後は、チームのメンバーとお礼のメッセージのやり取りをして、SNSでつながることができたので交流できるようになりました。

イベントのテーマである、「若者の社会参加・社会責任」ということに関しては、自分自身の経験も踏まえて、家族社会学を学び、家族の多様性について提供することで社会問題に参加したいと思っています。家族のあり方がもっとオープンになって、子どもの権利がもっと尊重されるべきだと考えています。そして、どんな社会問題に関しても、日本を伝えて海外のいいところをもらう、交流がすごく大事だと思いました。日本だけという殻に閉じこもるわけではなく、若者という大きなパワーで、発信力を大事にして、社会問題に対して参加していきたいと思っています。

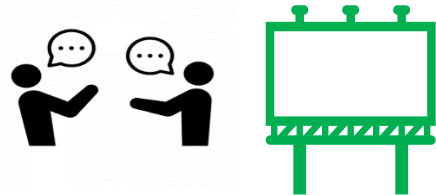
3、Hoa さん

スタッフの方たちが、英語で分かりやすく話して、グループを設定して、お互いに協力し合って活動しやすいようにしてくれました。



初日は、全体でお互いを知ることがメインでした。いくつかのグループに分かれて、話をして、どんな人なのかをよく知ることができました。そのため、2日目以降のグループ活動に移ってからも活動がしやすかったです。イベント全体の印象として、少し難しいと思うことがありました。私たちはみんな英語で話しましたが、多くの違いがありました。まずはアクセント。日本人の英語のアクセントは少し難しかったです。あとは、文化の違い。自分のことを共有することが必要なこともあるけど、日本人はあまりそれが好きではありませんでした。

私たちのグループは「環境」をテーマに若者の社会責任や社会参加とは何か、発表しました。発表の準備の段階でいろいろと調べて、若者の環境問題に対する行動や挑戦についてたくさん知りました。そして、若い世代の責任とは、環境に対して前向きな影響をもたらすことだと思いました。また、若者が参加できるような場がとても大切で、よりよい未来のために、行動に参加することを推奨していくべきだと思います。イベントから1週間経っただけだけど、イベントのことをたくさん思い出すし、もっともっと会いたいと思いました。



4、インターン うめけん

5日間に渡るイベントでしたがその分得るものも多く、とても充実したイベントになったと思います。最初はイベント参加者をサポートするスタッフとして参加していましたが、人数の都合の関係で参加者としてイベントに参加しました。運営側と参加者側の両方の視点を持っている自分からすると、スタッフとしても参加者としても感慨深いイベントになりました。

最も心に残っているものはメンバーと協力して一つのものを作り上げた達成感です。5日間の間グループのメンバーとともに最終日に行われるプレゼンテーションの準備をしました。ベトナムと日本の時差を考慮してお互いの予定を調整したり、言語面で苦労が多かったりと、このイベントならではの問題に何度も直面しました。そのような状況のもとでそれぞれがベストを尽くして準備をし、本番でも満足のいくプレゼンをすることすることができました。様々な問題を共に乗り越えたからこそ、達成感も大きかった上に連帯感もありました。また、ICYEのスタッフとしても何ヶ月も前からイベントに向けて準備してきたことを知っているのも無事にイベントが終わってよかったとも感じました。そして「自分もいつかイベントを企画し、運営してみたい」とI See Your Engagementが終わった瞬間に思いました。I See Your Engagementは自分にとって単なるいい経験としてだけではなく、次のイベントへのステップになりました。



5、インターン ともな



私は、今回のイベントの3日目がICYEでのインターンの初日だったので、途中からの参加でしたが、非常に有意義な経験になったと思います。3日目に行ったディベートでは、ベトナムの参加者の方々がとても意欲的で、年齢を気にせずに自信をもって意見を述べる高校生の方々の姿勢には特に刺激を受けました。

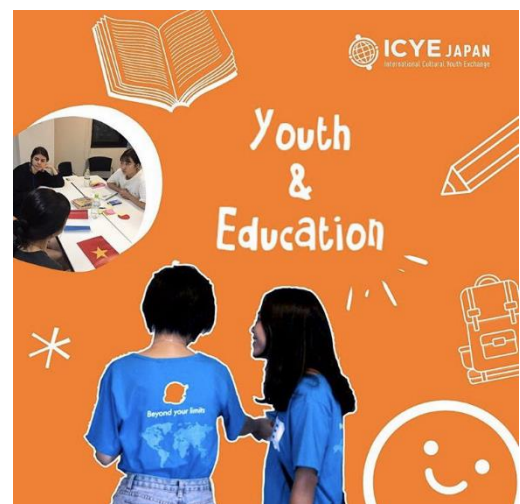
また、今回このイベントに参加した中で個人的に一番良かった点が、ベトナムの参加者の方と一つのチームになって活動できたことです。人数の関係上、5日目のプレゼンテーションを参加者側として行うことになりました。プレゼンでは、発表することはもちろん、その準備も重要な作業であるため、発表の前日にzoomで打ち合わせをしたり、個々でスクリプトを書いたりなどの準備をしました。国や文化が異なるため、説明不足や言い方による語弊が起こらないような「伝え方」が難しかったのですが、円滑なコミュニケーションをとることができたと思います。

この念入りな準備のおかげで、プレゼンが無事終了した後は、一つのチームとなって活動できたという達成感を感じることができました。このイベントを通して非常に多くのことを学び、より広い視野を獲得できた気がしています。次の11月のイベントも楽しみにしています。

6、インターン はると

インターン初日にイベントの内容も詳しく把握しないままイベントに参加しましたが、このイベントを通じて学ぶことが多くありました。イベントの3日目から参加した自分にとっては、最終日まで2日しかなく、グループのメンバーとプレゼンテーションを完成させることにとても苦労しました。1日でプレゼンの内容から具体的な流れまで全て決めること、英語を使って相手に分かりやすく伝えることなど大変なことが多くありましたが、何とか最終日にはプレゼンテーションをすることができました。

今回のイベントに参加して感じたことは、オンラインでも国際交流ができるということです。海外の人と簡単にディスカッションやプレゼンテーションを行うことができオンラインの強みも感じました。もちろん実際に現地に行くことができればベストですが、オンラインでも海外の人と繋がることができ、内容の濃いイベントを開催できることを実感しました。



“I See Your Engagement” スタッフコメント

1、ICYE ジャパン事務局長 又吉莉奈

【 I see your Engagement 】が無事終了。
 終えてみて浮かんだこと。「可能性しかない！」



WHO が covit-19 の世界的大流行を宣言し、日本も緊急事態宣言が発令され、ICYE でも世界各国の委員会が派遣受け入れ事業を停止、縮小せざるを得ない状況になりました。毎日世界中の ICYE 委員会から新型コロナウイルス状況、事務局の運営状況を伝えるメールが飛び交う中、AP（アジア太平洋地域）のコーディネーター（AP 代表）ICYE ベトナムの Mai から「We are stronger together. all NCs is facing a difficult situation but it is important to remember that we are not alone. If any of you have any ideas on what we can do in this challenging situation」そこから【 I see your Engagement 】の企画がスタートしました。

国際ボランティアを「今」は交換することは出来ないけれど、文化交流、国、言葉・文化を超えた交流はオンラインでも「できる！」新スタッフのガーさんを中心に、コーワーカーの皆さんのお陰で、初のオンラインコラボレーション企画は、とてもいい形で終われたと思います。

制限されることが多い時代になってしまいましたが、「出来ないことを嘆いている暇はない！目の前にあるリソースで出来るための方法を考える！」と、このコロナ渦を乗り越えたいものです。また、その先も続く各国 ICYE 委員会との繋がり、協力がより良い世界・社会への鍵となることでしょう。

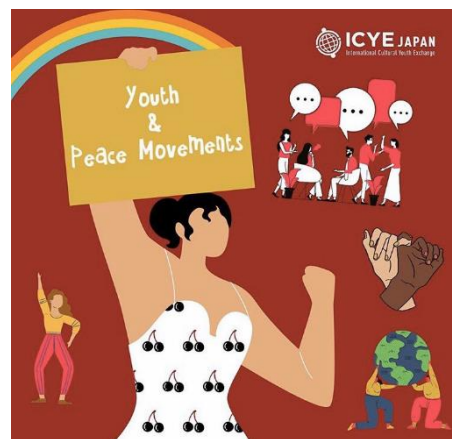
ICYE ジャパン事務局長 又吉莉奈

2、ICYE ベトナム Mai さん

ーイベントを企画した経緯・想いを教えてください。

コロナウイルスの影響で、私たちが本来行っていたプログラムが多くができなくなりました。話し合いを重ね、このような状況下でも若者に影響を与えることができ、且つ国際交流の一環となるようなイベントを作りたいと考えていました。最初は私個人のアイデアに過ぎませんでしたが、しだいに他の国のパートナーたちと協力してイベントを作りあげたいと考えるようになりました。そして協力を呼びかけたところ、手を挙げてくれたのが ICYE ジャパンでした。イベントを開催するにあたって、私は何も具体的な内容を決めていませんでした。しかし、ICYE ジャパンや Rina さんの協力のおかげでイベントを成功させることができました。

このイベントは、私が作りあげたものでも Thu さんが作りあげたものでもなく、イベントに関わってくれた全ての人々が作りあげたものだと感じています。特に Rina さんの協力や関わりには深く感謝しています。今回のようなイベントをもっと開催してゆきたいです！



ー実際に準備を進めていく中で、苦労したことや気を付けたことなどはありますか。あるいは思ったよりもスムーズだったこと等あれば教えてください。

オンラインイベントならではのインターネット接続の不具合に苦労しました。イベントの初日には様々な技術的な問題が起きました。私の場合、接続がうまくいかなかったためにセッションのほとんどに参加できないことがありました。しかしこの問題を解決するためにはパソコンを買い替えるなどのことしかできないため、難しい問題であると感じます。



イベントを通して良かったと思うことは参加者を含めたこのイベントに関わった人々の存在です。多様な人々がチームとなって活動していたことを嬉しく思いました。Mai や Rina を含めた全てのイベントの主催者には本当に感謝しています。

—ずばりあなたの” My engagement” とは何ですか。

社会にとって価値のあることを他の人々で行うこと！
 「他人に変わって欲しければ、自ら率先して変化の原動力となるべきだ」というマハトマ・ガンディーの言葉は、私がどのように社会に対して関わるべきであるかを表していると感じます。



—将来の国際ボランティア生へ、メッセージをお願いします！

親愛なる皆様へ。あなたが将来に描くビジョンは何ですか。世界平和、汚染のない環境、言論の自由が保障された世界。あなたのビジョンがどのようなものであっても、「他人に変わって欲しければ、自ら率先して変化の原動力となるべきだ」という言葉を忘れないでほしいです。アクティブになってぜひ行動に移してみてください。どんな小さなステップからでも始められます。私たちと共に国際協力を行うことは、あなたが目指す世界を作りあげる冒険の一步目となります。

2、ICYE ベトナム Thu さん

—イベントを企画した経緯・想いを教えてください。



コロナウイルスの影響で、活動がままならない状況が続きました。生活が大きく変わり暇を持て余しているなかで、何かをしたいと感じていました。長い期間に渡ってワークショップやワークキャンプなどを開催できなかったため、イベントを作り上げる機会や若者との意見交換の場が不足していました。特に若者との意見交換は、彼らの熱意や能力の高さを認識させてくれる機会であるため行いたいと考えていました。私にとってイベントの運営に関わることは、何かを作り上げることだけでなく何かを学ぶことでもあります。このイベントを運営し参加した理由には、そのような交流の場と欲していたことと若者と働くことをいつも楽しみにしていたことが挙げられます。

—ずばりあなたの” My engagement” とは何ですか。

私はいつも若者と働くことを楽しみにしています。若者は社会をより良いものにする原動力であると考えます。そのため、若者が持つアイデアをサポートする役回りを果たしたいです。彼らは背中を押してくれる存在を必要としています。私は彼らをサポートし彼らのモチベーションを支えたいと考えています。

—実際に準備を進めていく中で、苦勞したことや気を付けたことなどはありますか。あるいは思ったよりもスムーズだったこと等あれば教えてください。

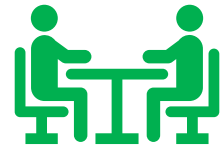
私は想像力を働かせながらイベントを作りあげることの難しさを感じました。オンライン上でイベントを行ったことがなかったため、どのように運営とコミュニケーションを取れば良いのかがわかりませんでした。オンラインイベントについて意見交換をしたことがなかったため、意見を持ちよったりプロジェクトアシスタントとコミュニケーションを取ったりすることが難しかったです。良かった点は Ngaさんと働くことができたことです。彼女はとても丁寧で熱心でした。Ngaさんはまだ若いにも関わらずマナーやイベントに対する姿勢は見習うべき点が沢山あると感じました。また、良かった点は参加者の姿勢の変化にもあります。私は、参加者は主体的に参加してくれないと予想していました。しかし、二日目・三日目には積極的な参加が見られたことが印象的でした。最終日には、もっと時間があっても良かったのではないかと感じました。

MaiさんとThuさんが重視する“*Youth Power*”の担い手として、社会に変化をもたらすこと。言葉だけを聞くと壮大なことに思えてしまいます。しかし、社会における様々な価値観が変化するコロナ禍では、若者が社会に新しい価値を提供することが必要不可欠であると考えます。コロナ禍は私たちも大きな変化を要求されている時代。これからの社会のあり方を決定する若者が、様々な行動を起こす必要性があるのではないのでしょうか。

インターン Mami



3、ICYE ジャパン Ngaさん



—イベントを企画した経緯・想いを教えてください。

ベトナム人として、ICYE ベトナムとコラボレーション企画をしたいとずっと思ってきました。初めてミーティングをした時、私たちはこのプログラムに関していろんなアイデアを思いつきました。歴史や伝統、教育システムか女性のエンパワーメントなども考えました。そして最後に、ICYEの参加者の多くに響くだろうと、「若者の社会責任・社会参加」をプログラムのテーマにすることにしました。話し合った4人ともが、「絶対楽しいプログラムになる!!!」言っていたのを覚えています。

—実際に準備を進めていく中で、苦労したことや気を付けたことなどはありますか。あるいは思ったよりもスムーズだったこと等あれば教えてください。



私にとって1番大きな挑戦はプログラムが始まってすぐにありました。私たちは全て細かく計画していましたが、思っていた通りだったのでしょうか？初日は私にとっていい勉強になりました。何人かの参加予定者がいなくなって不参加になり、連絡をとることもできなくなりました。テクニカルな問題もあって、予定時間をだいぶ越してしまい、主な進行役の一人として緊張しすぎてしまいました…初日を終えて、みんなが励ましの優しい言葉をかけてくれたことにとても感謝しています。

親愛なる姉妹と一緒に働くことができとても感謝しています（本当にありがとう！Thu!）また、この全プログラムに関して私に全幅の信頼を寄せてくれたリナにとても感謝しています。そして、いつも熱心に私を助けてくれたインターンのみんなに、大きなハグを送ります。彩夏さん、すごくエネルギッシュでユビキタスなレポーターになってくれてありがとう！トミーとうめけん、プログラムアシスタントとしてとっても助けてくれてありがとう！私にとって、このイベントの後に、みんなが一緒になってもっとやる気になっている姿を見ることは、間違いなく最高の成果です！

—「ずばりあなたの” My engagement” とは何ですか。

まず、私は周りの人達にポジティブな雰囲気をもたらせると信じています。次に、私の周りの人達は、確かに社会にプラスの影響を与える素晴らしい人たちだと信じています。そして、私たちの社会は、いつも良く変わっていくと信じています。これが、私の社会への従事です。

もっとこういうイベントをやらなきゃ！私たちの参加者を寂しがらせちゃいけないよね！

4、プロジェクトアシスタント トミー

イベントを終えて、今回はプログラムアシスタント (PA) として参加したスタッフへインタビューを実施しました。ICYE ジャパン側は動画作成でおなじみのトミーです！



—率直に、イベントを終えてみてどうですか。

PA として Ha さんに引っ張ってってもらった部分がありました。各グループからヘルプ連絡が来ることは特になかったけど、自分からももう少し積極的に関わってもよかったな～とも思います。緊張もしたけど、とてもいい経験になりました。

—今回 PA という立場で参加でした。このイベントに参加した経緯や理由を教えてください。

大学の授業が今はすべてオンラインで、英語で話す機会もないので、英語を使っただけの活動をしてみたいと思いました。それと、せっかく ICYE にいて、(PA としてイベントに関わることができる) 機会があるから、やってみようと思いました。「これどう？」と言われたことは、とりあえずやってみる！精神です。

—ノリの軽さがトミー！イベントに関わってみて印象的だったことは？

日本人ってシャイだなーと改めて思いました。同じアジアとはいえ、ディスカッションのときにベトナム人の積極的にどんどん話していたのが印象的でした。



—イベントを通して感じた・考えた・学んだことを教えてください。

行って実際に目にしたベトナムの様子を、現地のベトナムの人たちがどうとらえているのか・思っているのかを知ることができてよかったし、最終プレゼンはどれも面白かったです。ベトナムなまりの英語が初めのうちは聞き取りづらくて。ネイティブ以外の人と話すことの難しさを知ることができたり、いろんな英語があることを知ることができました。単純に、ベトナムの人と英語を通じて話ができてよかったです。

—最後に、ずばり、あなたの、「My engagement」とはなんですか。

正直、PA としてもっと積極的に関わったのでは、もっとできたのではと消化不良な部分もあります。でも、今回のイベントは「失敗から学ぶ、次へのステップ」として、今後のイベントでも頑張りたいと思います。

イベントの中日には、ベトナム側 PA の Ha さんと 1 日で見事なプレゼンを成し遂げたトミー。その裏の苦労や悔しい思いを知って、次のイベントでのトミーの活躍が楽しみになりました！

トミー、インタビューにご協力ありがとうございました。

インターン Ayaka

5、プロジェクトアシスタント Ha さん



—今回、Ha さんは PA という立場で参加されました。そのような立場でこのイベントに参加した経緯や理由を教えてください。

日本のアニメが好きで日本語の勉強をしています！その影響で他の様々な日本文化にも興味を持っていたため、PA を務める運びとなりました。

—PA としてイベントに関わってみていかがでしたか。

スケジュールがタイトであることは事前に認識していましたが、思っていたよりも長引いてしまいました。次回はもっと余裕のもった時間設定をしたいとは感じているものの、時差があることの難しさを感じています。前々から、日本人は自分が持つ意見を主張することに消極的だというイメージを持っていました。初日は、日本の皆さんがイベントで意見を述べてくれるかとても不安でした。しかし最終日には日本人・ベトナム人関係なく意見を述べてくれたので、イベントは成功だったと感じています！



—イベントを通して感じたことや学んだことは何でしたか。

将来、国際協力の分野で働くことを視野に入れていきます。このイベントはコロナウイルスの影響により様々な制約がある中で、何かしらの”movement”を作り出すことの大切さを教えてくれました。このような状況下においても、誰かと繋がりを持っておくことは心身ともに健康にいるための秘訣であると考えます。

—あなたの”My Engagement”とは何ですか。

コロナウイルスの流行がなければ大学最後の年にふさわしく沢山の経験ができていたと感じます。経済活動も教育も十分とは言えない世の中で、この生活様式に慣れることが”My Engagement”であると感じます。目に見えないものの価値をもっと感じていきたいと考えています！

—最後に国際協力に関わりたいと感じている日本の皆さんにメッセージをお願いします！

若いからたくさん間違えて失敗していい。だから心配しないで自分に挑戦して輝いてみよう！（Ha さんが日本語で文章を作成してくださいました！）

私は「コロナ禍」とも言われる状況下において、できないことばかりを数える日々を過ごしました。一方でインタビューをした Ha さんは、このような状況であるからこそ持つべきポジティブな考え方をもち、日本語の勉強を含めた様々なことに挑戦していました。外国人から「消極的」というイメージを持たれがちな日本人だからこそ、やりすぎなくらい主体的に意見を主張したり何かに挑戦したりしてもいい、インタビューを通してそんなことを感じました。

インターン Mami

事務局だより

—派遣生オリエンテーション—

8月15日、派遣生オリエンテーションが行われました！これから派遣国を訪れる皆さんに加え、既にデンマークに到着された Yui さんと Shoko さんが参加して下さいました。派遣生の皆さんには事前に「なぜその派遣国を選んだのか」というテーマを設定した、英語のプレゼンテーションを用意して頂きました。



※お名前(派遣国)

・ Ayaka さん(フィンランド)

フィンランドの発達した教育や文化が理想的であると感じ参加を決意した。小学校が使用している 発達した機材やおしゃれな机などがとても魅力的！

・ Haruna さん(ドイツ)

好きなロックバンドがドイツにいる。新しい環境に挑戦したいという強い思いから、海外でのボランティア活動に参加することを決めた。

・ Sanae さん(デンマーク)

デンマーク文化に興味があった！デンマークチーズの美味しさや日本にはない統一された建物の美しさが魅力的。ネガティブで内向的な自分自身を変えたい！

・ Misato さん(フィンランド)

幼稚園の先生として働いていた経験から、日本の教育現場ではひとりひとりに焦点をあてた教育をすることが難しいと感じていた。そんな時に、フィンランドでは小規模な教室で子供たちが教育を受けていることを知り驚いた。一年後には、フィンランド語や英語を話せるようになりたい！

皆さんそれぞれが、個性的な興味や自身のキャリアに基づいて派遣国を選択していました。そして、最も印象的であったのが、Sanae さんが仰っていた、派遣を通して「自分自身を変えたい」という言葉。自分自身の内向きな性格を変えたいという Sanae さんの姿勢からは、派遣への強い思いを感じることができました。派遣に伴った英語力要件の設置をしていないことは ICYE ジャパンの大きな魅力の1つ。英語を話すのが得意な方も苦手な方も、自分の力で最大限のプレゼンテーションを用意して下さいましたその姿勢に、刺激を受けました。

「自分を変えたい」、「英語を話せるようになりたい」、「派遣国の教育現場に赴きたい」という目標を持っていた皆さんと共に、「自分らしく顔張る」というスローガンを掲げました！このような状況下であっても、派遣生の皆様と共に目標に向かって走り続けたいと思います。

インターン Mami

ー日本語ディスカッションー



インターン生のトミーとうめけん主催、日本語ディスカッションが行われました。タイトルは「性教育チェンジ・ザ・ワールド」。日本における性知識の定着率の低さは、20歳未満の人工妊娠中絶件数が多いことから見て取れます。ディスカッションでは日本の性教育が抱える問題、そして問題を解決する方法について話し合いました。

日本の性教育が抱える問題

- ・基本的に男女別で学習することが多い。
 - 生理に関する話、生理用ナプキンの使い方などは女性だけが集められて説明される。
- ・教育課程で性教育が重視されていない。
 - 受験で使用する科目ではないため教える側、教えられる側どちらにも重視されにくい。
- ・「性に関する話」＝茶化される内容またはいやらしいものとして捉えられてしまう。
- ・「月経」や「性交渉」など普段使うことのない用語を使用するため、実践的な内容とは言えない。

問題の解決方法

- ・性教育を教育現場に押し付けない。
 - 家庭内で教えて当たり前のことであるため、家庭で性に関する話題に触れることをタブー視しない。
- ・幼い頃から性教育に触れる
 - フィンランドでは5歳の頃から男女の体つきの違いなどについて学ぶ。
- ・出産や育児を女性のみに関わる問題であるという間違った認識をなくすために、男女別の学習をやめる。
- ・性教育は自分の「生」全体に関わる内容であるため受験で使用する科目よりも重視されるべき。



私は、小学5年生の時に初めて生理について学びました。私の小学校では修学旅行の前に女子だけが小さな集められ、女性教員の指導のもとでナプキンの使い方を学びました。そこには明らかに、「男子・男性が踏み込んではいけない空間」が作りあげられていました。小学6年生の時、小さなポーチをもってトイレに入る姿を同学年の男子にからかわれたことを覚えています。そのことがトラウマとなり、生理になった時はいつもランドセルを抱えたままトイレに行っていました。

あの時、男子も一緒に生理について勉強していたらこんなことは起こらなかったのではないかと、そんなことを今でも思います。性教育は確かにデリケートな内容を含みます。しかし、いつまでもタブー視しては、性知識の定着率の低さは解決されないと強く感じました。

インターン Mami

—来日生オリエンテーション—



8月22日に来日生イベントが行われました。コロナウイルスの影響で、来日生が実際に日本を訪れることが難しくなっているものの、オンライン上でイベントができることをとても嬉しく思いました！今回の行われたディスカッションは”Gender Equality”について。来日生は、日本と比較して女性の社会進出が顕著であるフィンランドとスイスの出身！各国において女性がどのように社会で扱われているのか、ディスカッションを行いました。

フィンランド

ジェンダーギャップ指数 3位

- + 首相や大臣に女性が多い。(現在の女性首相は既に3人目！)
- + 文化や性別に優劣がないことが教育課程の中で伝えられる。
- 仕事によって男女比率に差がみられる。

スイス

ジェンダーギャップ指数 18位

- + 男性・女性のステレオタイプ(男性を働き女性は家事を行う)は崩れてきている。
- エンジニアリング職において男性の占有率が高い。
- ヨーロッパの中では、男女平等の気風が他国より少ない。
- 多くの民族や言語が混じりあっているため、文化背景が異なり一概に男女平等を謳うことができない。

日本

ジェンダーギャップ指数 121位

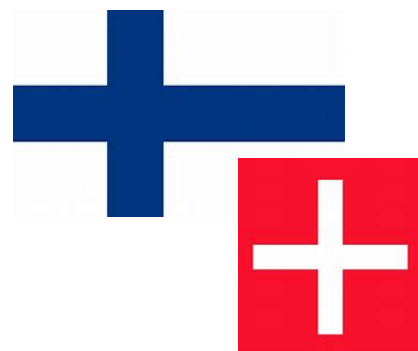
- 政治家などの国全体を動かす役職に女性が少なく、ジェンダーギャップ指数の順位が低い主な原因の一つとなっている。
- 職場において女性は「結婚をしたら家庭に入るため、すぐに退職をする存在」とであるとみなされる。
- 家事にのみに従事する男性の割合が極端に少ない。

※ジェンダーギャップ指数とは男女格差を経済、政治、教育、健康の4つの分野から算出したもの。順位が高いほど格差が少なく、順位が低いほど格差が大きいと言える。

このディスカッションを行うまで、私は漠然と「ヨーロッパでは女性の社会進出が顕著に現れている」というイメージを持っていました。しかし、実際に来日生の話聞いてみると、まだまだ世界全体にジェンダーギャップが存在していることがわかりました。

私は就職活動を行う中で、「あなたは女性で、ワークライフバランスを重視する傾向があるため、長く働くことはない」と面接官に言われたことがあります。時代が進んでゆく中で、男性・女性という枠組みに囚われることなく、全ての人々が平等に評価される社会が形成されることを、心から願っています。

インターン Mami



帰国生の声

2019年9月から、2020年3月までフィンランドへ留学をされていた清瀬紗希さんが帰国されました。清瀬さんが我々に共有して下さった現地での様々なご経験を、簡単に紹介させていただきます。

—実際に留学に行ってみてどうでしたか。

最終学年の子どもたちも午前で授業が終わる日があり、自分の興味のある科目を選んで授業を受けるシステムが充実して子どもたちの自主性を尊重していることに感動しました。一方で、残念だった部分もあります。それは子どもたちの自主性を尊重しすぎているあまり、授業が成立しないという場面にも多く遭遇しました。良い点・悪い点もしっかり見ることができる長期間を選び、様々な視点で考えることができよかったですと思います。

—良かったこと、感動したことはなんですか。

ボランティア先のクリスマス会で小学生全員が日本語できらきら星を歌ってくれたことです。約1か月間かけて一生懸命覚えてくれたこと、精一杯声を出してくれていることに感動しました。このボランティア先でボランティアをしてよかったと思えて瞬間でした。



—プログラムに参加する前と後で、自分自身が変わったなと思うところがありますか。将来の自分のしたいことが参加する前に比べてとても明確になったと思います。考え方もフィンランドに行ってみて、自分が想像していないような考え方もあることを知りました。プログラム参加後、視野が広がったと思います。

—これから行く人へのメッセージも是非お願いします！

この留学を支えてくれた家族や友達はもちろん、ICYE Japan、ICYE Finlandのスタッフの皆さん、ホストファミリー、ボランティア先の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。今ボランティアを終えて思うことは、心からフィンランドでボランティア留学ができてほんとうによかったです。あの時挑戦してみてよかったです。これからボランティアを考えている皆さん。つらいこともきっとあると思います。うまく自分の言いたいことを伝えられず悔しい気持ちになり、文化や習慣に困ることがあるかもしれません。でも、半年後や一年後必ず成長した自分が待っています。全力でトライしてみてください！

清瀬さんは楽しかったことばかりではなく、フィンランドの教育現場のネガティブな側面や言葉が伝わらない悔しさを共有して下さいました。しかし、「挑戦してみてよかった」という彼女の言葉にもあるように、プログラムへの参加は必ず自分自身の成長に繋がります。清瀬さんが共有して下さった言葉には、これからプログラムに参加される皆さんの不安を払拭し、やる気を引き出してくれる力があると感じました。

インターン Mami



お知らせ

2020 ICYE ジャパン会員総会のお知らせ

ICYE ジャパン事務局長
又吉 莉奈

【目的】

会員の方々に近年の活動状況や事業報告・決算報告などを行い、より良い団体・プログラムにしていくための情報共有をする。

60年以上続く団体に携わる、多種多様な人々の間で交流を深め、ICYE のミッション、ビジョン、ゴールを再確認する時間を共にする。

【場所・日程】

日にち：2020年11月3日（火）文化の日

場所：国立オリンピック記念青少年センター
またはオンライン開催

【総会暫定コンテンツ】

- | | |
|--------------|------------------|
| 1,事業報告・決算の承認 | 6,会員同士の交流 |
| 2,理事の再任と紹介 | 7.（会員登録の確認・会費徴収） |
| 3,監事の選出（承認） | 8.（寄付・資金造成など） |
| 4,次年度予算報告 | |
| 5,活動報告 | |

詳細は確定次第、お知らせいたします。



インターン' s Voice

ICYE ジャパン
インターンメンバーから
今の声をお届け♪

こんにちは！8月から ICYE ジャパンでインターンをさせていただいています！

上智大学外国語学部英語学科二年生の濱田朋奈です！今回 NPO 法人ドットジェイピーでインターンを行うにあたり、数多くの機関先から ICYE を選んだ理由は、ICYE の活動内容が自分の興味関心と一致していたからです。活動内容を見てすぐに「ここだ！」と直感で決めました(笑)私は、小学生のころから、海外に対して強い関心を抱き、アメリカ、オーストラリアでの語学留学や、カンボジアで英語のティーチングボランティアを行うなど、海外での様々な経験を経てきました。

そして、ICYE なら、これらの自分の経験を活かしながら、自分自身が楽しんで活動できるのではと思い、インターン先として選ばせていただきました。

実際、活動を通して自分が提供することよりも、学ぶことのほうが多く、とても楽しく、充実した活動を行っています。オンラインでの活動にはなりますが、オンラインだからこそできることがたくさんあると思います。何事もポジティブに捉え、この貴重な機会を最大限活用したいです。よろしくお願いいたします！



初めまして！ICYE ジャパンで8月からインターンとして働いている齋藤温大です。「夏休み中に何か新たなことに挑戦したい！」との思いからインターン活動に応募しました。インターン活動を始めてまだ半月ほどしか経っていませんが、多くのことを経験しました。

インターン初日に参加した ICYE ベトナムとの | See Your Engagement では、ベトナムの方々と共にプレゼンテーションを作り、オンラインでもできることがあると実感しました。コロナウイルスの影響によりできることが限られているかもしれませんが、その中でも自分ができることを頑張っていきます。



齋藤温大

こんにちは！8月からインターン生としてICYE ジャパンで活動しております、早稲田大学4年生の渡邊真未と申します。私自身8月から開始予定であったアメリカへの派遣に向けて準備を進めていましたが、コロナウイルスの影響によりプログラムへの参加ができなくなってしまいました。そのため、これからはICYE ジャパンのインターン生として主にニュースレターの執筆に関わらせて頂くこととなりました。



コロナウイルスの影響によって国際交流を行う機会が減っている現在において、ICYE ジャパンが持つ他国との密接なネットワークは効果的に活用すべきものであると感じています。ICYE ジャパンの強みとも言える「パートナー精神」を生かして、将来的には”I see your engagement”のようなイベントを企画したいと考えています！

渡邊真未



早く全員で事務所に
集まることが
できますように…

【編集後記】

「今年の夏はオンラインの夏だね！」と春に話していた通りの夏だったなあとニュースレターを作りながら思っていました。ウィズコロナやアフターコロナの時代—と言われ、「これまで通りに戻る」ではなくなるらしい、将来の見えづらさに暗い気持ちになるときもあります。でも私が夏を通して感じたのは、そんな暗さも吹っ飛ばず『若者世代のパワー』です。可能性が広がったオンラインイベントしかり、新インターンメンバーとの活動しかり、眩しく輝く前向きな姿に「立ち止まってくよくよしている暇はない！」と何度も奮い立たされました。何かをしてもしなくても、こんな時でも、時間は平等に流れていきます。それなら何か楽しくて面白くていいことに時間を使って、自分をわくわくさせていこうと思います。

インターン Ayaka

初めてニュースレターの作成に関わらせていただきました。最も感じたのは、ICYE ジャパンは本当に多くの人との関わりをもっていること！ICYE ジャパンが持つ無限の可能性を感じることができました。パートナーの皆様と「オフライン」で会いたいという気持ちが強まります。直接お会いできる日がくるまで、どうか心身ともにご自愛ください。

インターン Mami

発行元

特定非営利活動法人 国際文化青年交換連盟日本委員会 (ICYE ジャパン)
〒169-0074 東京都新宿区北新宿 1-7-21 高澤ビル 901

Tel / Fax 03-5389-5041

E-mail office@icye-japan.com

HP <http://www.icye-japan.com>

Facebook: [icyejapan](#)

Twitter: [@icyejapan](#)

Instagram: [icyejapan](#)



ICYE JAPAN
International Cultural Youth Exchange